

南武油缸

南武中国・常州に現地法人

標準シリンド
スイッチなど 生産を開始

金型用中子抜きシリンドをメインとする南武(東京都大田区、03・3742・7377、野村和史社長)は、中国・江蘇省常州市に現地法人を設立し、7月から業務を開始した。標準シリンドやスイッチなどの製造から始め、将来的には特殊シリンド製作も行う。日系企業や現地企業向けに販路を拡大し、市場を開拓する。

新会社の社名は「南武油缸(常州)有限公司」で、資本金1億5000

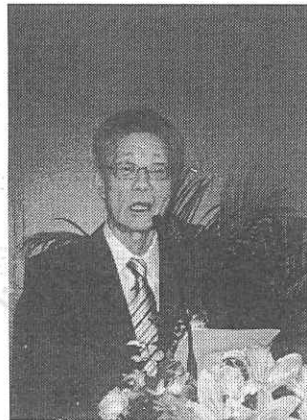
万円。総経理には日本に帰化した松本和樹氏が就任し、副総経理には野村正樹氏が就く。工場は延べ床面積2500平方m。将来的には大型の特殊シリンドやメンテナンスにも対応したい。価格競争が激しいのでコスト削減も強化する(野村社長)。一方で、品質面にも最大に配慮する。現地調達した部材に関しては引っぱり検査など行つほか、足りない部材は日本から対応する。野村伯英副社長は「日本同様に問題解決型のスタンスで市場を開きたい」としている。



新工場外観

タイ・中国で
アジアをカバー

常州市は上海から電車で約1時間のところに立地し、自動車関連などを始め、モノづくり企業が集積し始めている。常州市の総投資額は150億ドルにも上っている。同社では9年前にタイに進出し、日本とタイからアジア市場全体をカバーしてきたが「中国市場の



あいさつする野村社長

単独でフォローする拠点

が必要」(野村副社長)と判断。1年間の調査期間を経て、昨年3月に進出を決定した。タイはASEANを中心としたアジア、中国は新会社でカバーし、東アジアをカバーできる体制が整った。本格稼働に際し、6月28日には開所式を開催。ユザーや地方政府の関係者ら約150人が出席した。

野村社長はあいさつで「皆さんの支援もあって設立できたがこれからが本当に大変。今後ともご支援頂きたい」と述べた。また、出席した日系ユザーは「既に日本での実績から品質は間違いないし、心強い」と話していた。



工場内部

新工場の概要

住所 中国江蘇省常州市武進区武進高新技術開発区鳳鳴路18号智思工業園5号廠房
電話 0519・89816060
代表者 松本和樹総経理

φ63×φ125までの

標準の中型シリンドとスイッチの製造からスタートする。「9月には小型のシリンドにも着手し、将来的には大型の特殊シリンドやメンテナンスにも対応したい。価格競争が激しいのでコスト削減も強化する」(野村社長)。

一方で、品質面にも最大に配慮する。現地調達した部材に関しては引っぱり検査など行つほか、足りない部材は日本から対応する。野村伯英副社長は「日本同様に問題解決型のスタンスで市場を開きたい」としている。

成長性とユザーからの要望も多く、中国市場を